

ABSTRACT OF LECTURE
KEYNOTE LECTURE

4月25日(土) 15:10~

医科における顕微鏡手術の黎明と進化
—MIS (Micro Invasive Surgery) 時代への提言—
尾崎 弘明 福岡大学医学部 眼科学教室 診療教授

Dawn and evolution of microsurgery in medicine
—Recommendations for the MIS era—
Hiroaki Ozaki
Clinical Professor
Department of Ophthalmology, Fukuoka University

医科における顕微鏡手術の黎明と進化

—MIS (Micro Invasive Surgery) 時代への提言—

尾崎 弘明

福岡大学医学部 眼科学教室 診療教授



1. 医科における顕微鏡の導入と役割

顕微鏡手術は、1950年に耳鼻科で初めて医療の場に導入された。以降、その発展、進化は目覚ましいものがある。眼科においても以前は肉眼もしくは拡大鏡での手術のみで、明らかに限界があったが顕微鏡を導入することによって、より細部を観察することができ、組織に低侵襲な新しい手術手技が次々に可能となった。まず前半では肉眼での手技の限界ならびに顕微鏡手術導入の意義、功績について言及する。

2. 顕微鏡手術の実臨床

眼科手術は100%では顕微鏡手術であり、すべての眼科医は顕微鏡下での操作に精通しなければならない。そのため、学生および研修医教育の過程で福岡大学医学部眼科学教室では豚眼によるウエットラボや顕微鏡手術ソフトを用いたシミュレーションを行なっている。顕微鏡手術を開始する前からの備え、そして我々の実臨床における実際の顕微鏡手術のビデオを供覧し、顕微鏡手術の実際について言明する。

3. MIS (Micro invasive surgery) における顕微鏡の重要性

近年潮流となりつつある MIS (Micro invasive surgery) について述べる。医療における最終目標は医療技術の進化と患者の負担軽減による満足度の向上と考えられ、医師および歯科医師は日々切磋琢磨して患者の QOL の向上に努めなければならない。外科領域における昨今の手術器具の進歩は小切開手術へと繋がり、それに伴って手術時間の短縮および合併症の軽減が期待される。眼科においても小切開手術やインプラントを用いた手技がゴールドスタンダードとなりつつあるが、顕微鏡手術はその根幹をなすものである。

4. 近未来の顕微鏡手術

顕微鏡手術にもいくつかの功罪があり、Limitation として術者にとって長時間手術による身体への負担が否めない。医師や歯科医師にとって年齢を重ねるにつれて、顕微鏡手術が障壁となることも考えられる。近年、顕微鏡手術はさらに進化しており、モニターを見ながらの Heads-up surgery が開発された。従来の方法と異なり、3D モニター画面を見ながら顕微鏡手術を行う画期的なものである。近未来に実用化されうる体に優しい顕微鏡手術を紹介する。

本講演によって顕微鏡を用いる手技の魅力および可能性を体現していただければ演者にとっては望外の喜びである。

特別講演

略	1990年	大分医科大学（現大分大学医学部）卒業
歴	1990年	福岡大学眼科学教室 臨床研修医
	1992年	佐世保共済病院眼科
	1993年	福岡大学医学部大学院 修了
	1995年	米国ジョンズホプキンス大学 ウイルマー眼研究所 研究員
	1998年	福岡大学病院眼科 助教
	1999年	福岡大学病院眼科 講師
	2010年	福岡大学病院眼科 診療教授

学 会	日本眼科学会
	日本緑内障学会
	日本角膜学会
	Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO)